

いきもの記

Vol.184 2026.5.8

生物教員 佐藤龍平

発見難易度S級のサンショウウオを探せ！② ハコネサンショウウオ

(前号からの続き)東京の山奥の沢でハコネサンショウウオを探し求めて6時間。全く見つからなくて諦めかけたそのとき、、、「先生！！」と呼ぶ声が！

「やったー！やったぞー！！」ソウマが両手を挙げてガッツポーズしながら大声で叫んでいる。こ、これはもしや、**成体が見つかったのか？！**あわてて駆け寄ろうにも道が険しくて、気持ちとからだの動きが合わない。転びながら登り、ようやく2人のところへ着くと、そこには**見まごうことなきハコネサンショウウオの姿が！**「うわあああ成体だ！！思ったよりデカイ！すげええ！かわいいー！美しい！すげええー！」見つからない期間が長かったこともあって、もう訳が分からないくらい興奮した。「さっきまで先生、魂が抜けたような目をしてましたよ」と笑われる。そりゃそうだよ。「また見つからないのかあ…」と完全に気持ちが落ち込んでいたところだったのだ。今回2人に同行して、サンショウウオ探しで一番重要なのは**“折れない心”**だということを知った。ソウスケたちも、「正直、1人じゃきついですね」と漏らしていた。本当に名コンビだな。

「ここにいたんです！」と発見場所を教えてもらうも、今まで探してきた環境と何が違うのかよく分からない。**なぜここにおいて、他の場所にはいないのか…**。難しい…。結局時間をかけて探すしかないのか…。

結局この日、ぼくは幼生すら1匹も見つけられていない。搜索途中でソウマは、「これだけないと、逆にもし見つけた時は嬉しすぎて気絶するかも」と言っていた。ソウマですらそれほどなのだ。ぼくもし自分で見つけられたら、一体どうなってしまうだろう…。そんな日が来るかは分からないけど。

翌日の朝、びっくりするほどの筋肉痛と打ち身で、足も腰も腕も痛くて起き上がれなかったけど、その痛みさえも嬉しい。最高の思い出となった。



全身とサイズ感
尾が長くて細身。背中にオレンジ色の模様があるのが特徴。大人になっても肺を持たず、皮膚呼吸を行うという独特な特徴を持つ。



6時間の搜索の末について見つけたハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* の成体 東京都檜原村5月初旬
ぶにぶにの触感と美しい斑紋、そして透き通ってムチムチした4本指の前脚が可愛すぎる。生まれて初めて、サンショウウオの成体を野生で見れた。この日の疲れが一気に吹き飛んだ。



からだをS字にくねらせながら歩く



カエルっぽい(?) 正面顔

ハコネサンショウウオは他のサンショウウオよりも目が出張っているため、正面から見るとカエルっぽく見える。この正面顔、可愛すぎませんか？

ハコネサンショウウオは、1782年にオランダの博物学者ホッタインが箱根の個体をもとに記載された。そこから“ハコネ”の名が付いたが、箱根以外にもいる。日本の両生類として初めて学名がついた。ハコネサンショウウオ属は長い間、日本に1種のみとされていたが、2022年にDNAの調査でなんと7種に分かれた。すべて日本固有種。

東京には3種のサンショウウオがあり、そのうち1種(トウキョウサンショウウオ)が里山に生息するのに対し、残る2種(ヒガシヒダ、ハコネ)は山地の沢の源流部にしかいないので「流水性サンショウウオ」と呼ばれる。この「流水性」は発見が難しく、一般人の目に触れることは少ない。とくにハコネは標高の高い場所を好む。福島などではこのハコネを食用にするらしく、地域によっては相当数いるのだろうが、東京で見つけるのは非常に難しい。